

脳と才能

連載第20回
酒井 邦嘉
東京大学教授・言語脳科学者



酒井邦嘉 (さかいによし)
1992年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士。専門は言語脳科学で、人間に固有の脳機能を研究している。著書に『言語の脳科学』『科学者という仕事』『科学という考え方』(中公新書)、『脳の言語地図』(明治書院)、『芸術を創る脳』(東京大学出版会)、『チョムスキーと言語脳科学』(インターナショナル新書)、『脳とAI』(中公選書)、『勉強しないで身につく英語』(PHP研究所)、『デジタル脳クライシス』(朝日新書)。

「わたしたちの生きようとする生命は、
つねに喜びに向かっているのです。
知恵に従えば不自然になる」

鈴木鎮一著『愛に生きる一才能は生まれつきではない』 p.169
(講談社現代新書、1966年)より

鈴木鎮一先生のお言葉を紹介しながら、その奥義^{おうぎ}を科学で考えるという連載です。才能教育研究会がめざす「才能」には、どのような意味が込められているのでしょうか。そしてその才能は、脳のどんな働きに支えられているのでしょうか。

鈴木先生は、この言葉の直後に、「わたしたちの生命は、愛を土台として、真なるもの・善なるもの・美なるものに向かおうとするのです。釈迦がいわれた、〴〵人に本性あり、というのも、わたしはそうだと信じています。〔中略〕私の才能教育は、生命への教育であり、生きようとする生命への教育法でなければならなかったのです」とお書きです (pp.169-171)。「本性」^{ほんせい}とは、生まれつき備わる性質のことであり、「生きようとする生命」とあるように、生物の根本でもあります。仏教の一派である禅宗^{ぜん}では、自己の本性が、慈悲^{じひ} (いつくしみ、あわれみ) という仏の心に通じるのだそうです。「真善美」^{しんぜんび}という言葉がありますが、「真」は学問の真理、「善」は宗教の道義、そして「美」は芸術の理想と捉えることができます。

さて、人間には「理性」と「感性」という本性が両方備わっています。前者には思考力や判断力が含まれ、私は言語の能力がその根源だと考えています。後者は感受性や感情に関わる心の働きで、音楽などの芸術で解釈や表現に必要ですね。

このように両者は一見、水と油のように見え、英語圏のマインド (mind) とハート (heart) や、左脳と右脳の働きという対比によくたとえられます。しかし実際に音楽の脳活動を見てみると、まったく違うのです。特に音楽のアーティキュレーション (抑揚や緩急の変化で複数の音をまとめること) についての判断では、左脳にある文法中枢が働いています【マンスリースズキ 2022.1.1】。

そうすると、理性と感性には共通した

部分があると考えられ、スズキ・メソッドと私たちの共同研究第3弾では、歌詞 (文章) と楽音 (声楽) を同時に含む「歌曲」を用いることで、その点を深掘りしようと計画しています【マンスリースズキ 2025.1.1】。人間の本性について、脳科学から明らかにできる可能性が現実的になってきて、私も今からわくわくしています。

◇

イギリスの小説家のジョゼフ・コンラッド (1857 - 1924、生まれはウクライナ地方) は、『ナーシサスの黒人』 ("The Nigger of the Narcissus", 1897) という作品の序文で、次のように書いていました。

「芸術家は、私たちの心根^{こころね}の中でも、知性の部分とは関係のない部分に訴えかけようとするものです。自分自身の屋台骨にあたる、生まれながらにして与えられている感性に訴えかけようとするのであって、私たちが後天的に獲得した資質に訴えかけようとするものではありません…より普遍的・永続的な部分に訴えかけるということです。私たちは生まれながらにして喜んだり驚いたりしますが、芸術家は私たちのそのような部分に語りかける…のです」【バーガー&ニール著『マジックと意味』田代茂訳を引用、p.19】

先ほどの私の説明と対応付けると、「心根」という人間の本性において、「感性」は「後天的に獲得した資質」という能力とは独立していることとなります。そうした学習や勉強で身に付ける能力は「知性の部分」 (wisdom) であり、冒頭の言葉にある「知恵」を意味します。



レッスンで、理性と感性を育てましょう

芸術家が訴えかけようとするのは「普遍的・永続的な」本性であって、理性も含まれます。

野球のイチローさんは、「〔データで管理される野球で〕失うものがあるとしたら?」という質問に対して、「感性ですよ。目で見えてるものしか信じられなくなる。〔中略〕とにかく見えるものしか評価しないというのは、危険ですね」と語っていました。今や多くのスポーツで、タブレットに表示されるデータが「知性の部分」だと見なされて、頭で考えるということをしなくなっています。そうしたデータ依存の状態を、イチローさんは「退屈な野球」と評しました。本当の芸術家は、そうした時流^{ていとうてつび}に徹頭徹尾^{ていとうてつび}あらがわなくてはなりません。

◇

鈴木先生は、「みんな、教えることだけに夢中になって、育つという子どもの生命の実体を忘れてる。〔中略〕育てる教育をしなくて、教える教育をし、そして、教えたことをテスト、テストでせめて、その結果だけから評価します」 (p.172) と指摘していました。知性や知恵は教えられる部分ですが、感性は育てるしかないのです。